

デーヴォ ガイド



2024.7.29-8.4

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship



17:13 【主】はすべての預言者とすべての先見者を通して、イスラエルとユダに次のように警告された。「あなたがたは悪の道から立ち返れ。わたしがあなたがたの先祖たちに命じ、また、わたしのしもべである預言者たちを通してあなたがたに伝えた律法全体にしたがって、わたしの命令と掟を守れ。」

17:14 しかし、彼らはこれを聞き入れず、彼らの神、【主】を信じなかった彼らの先祖たちのように、うなじを固くした。

17:15 彼らは主の掟と、彼らの先祖たちと結ばれた主の契約と、彼らに与えられた主の警告を蔑み、空しいものに従って歩んだので、自分たちも空しいものとなり、【主】が倣ってはならないと命じられた、周囲の異邦の民に倣って歩んだ。

17:16 彼らの神、【主】のすべての命令を捨て、自分たちのために、鑄物の像、二頭の子牛の像を造り、さらにアシェラ像を造り、天の万象を拝み、バアルに仕えた。

17:17 また、自分たちの息子や娘たちに火の中を通らせ、占いをし、まじないをし、

【主】の目に悪であることを行うことに身を任せ、主の怒りを引き起こした。

17:18 そのため【主】はイスラエルに対して激しく怒り、彼らを御前から除かれた。ただユダの部族だけが残った。

17:19 ユダも、彼らの神、【主】の命令を守らず、イスラエルが取り入れた風習にしたがって歩んだ。

17:20 そのため【主】はイスラエルのすべての子孫を蔑み、彼らを苦しめ、略奪者たちの手に渡し、ついに彼らを御前から投げ捨てら

れた。

17:21 主がイスラエルをダビデの家から引き裂かれたとき、彼らはネバテの子ヤロブアムを王としたが、ヤロブアムはイスラエルを【主】に従わないように仕向け、そうして彼らに大きな罪を犯させた。

17:22 イスラエルの人々は、ヤロブアムが行ったすべての罪に歩み、それから離れなかったのだ、

17:23 【主】は、そのしもべであるすべての預言者を通して告げられたとおり、ついにイスラエルを御前から除かれた。こうして、イスラエルは自分の土地からアッシリアに引いて行かれた。今日もそのままである。

ユダ王国もイスラエル王国も、エジプトとアッシリアという大国に挟まれて、常にどちらに付くのかという選択に迫られる状況でした。本来は主に付くという信仰の大前提のもとで、政策を決まるべきでしたが、彼らは神を捨てて大国に従ってしまったのです。

その結果はこの14説からあるような罪深い墮落でありました。彼らは大国など有力な異邦人にならなくて、偶像邪教を取り入れてこれに仕え、自分たちでも偶像を造り、「息子や娘たちを火の中にくずらせ」、生きたままで焼き殺して異教の神にささげたのです。

「主の怒り」は当然のことです。その結果として「イスラエルは自分の土地からアッシリアへ引いて行かれた」のでした。主のさばきが厳しいというよりも、これまで忍耐された主のあわれみに驚くほどです。

私たちは彼らほどではない…と思いたいのですが、小さな妥協から大きな不信仰になっていったこと、過去に学んでも神の視点で見ずに人間的な解決しか考えなかったこと、1人1人が王や社会情勢に流されてしまって信仰の判断ができなかったことなどを考えれば、警戒すべきことは多いの

ではないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 火曜

列王Ⅱ

17:24 アッシリアの王は、バビロン、クテ、アワ、ハマテ、そしてセファルワイムから人々を連れて来て、イスラエル人の代わりにサマリアの町々に住ませた。こうして、彼らはサマリアを占領して、その町々に住んだ。

17:25 彼らはそこに住み始めたとき、【主】を恐れなかったので、【主】は彼らの中に獅子を送り込まれた。獅子は彼らの何人かを殺した。

17:26 彼らはアッシリアの王に次のように報告した。「あなたがサマリアの町々に移した諸国の民は、この土地の神についての慣わしを知りません。それで、神が彼らのうちに獅子を送り込みました。今、獅子が彼らを殺しています。彼らがこの土地の神についての慣わしを知らないからです。」

17:27 そこで、アッシリアの王は次のように命じた。「おまえたちがそこから捕らえ移した祭司の一人を、そこに連れて行け。行かせて、そこに住ませ、その土地の神についての慣わしを教えさせよ。」

17:28 こうして、サマリアから捕らえ移された祭司の一人が来てベテルに住み、どのようにして【主】を礼拝すべきかを教えた。

17:29 しかし、それぞれの民は、それぞれ自分たちの神々を造り、サマリア人が造った高き所の宮にそれを安置した。それぞれの民は自分が住む町々でそのようにした。

17:30 バビロンの人々はスコテ・ベノテを造り、クテの人々はネルガルを造り、ハマテの人々はアシマを造り、

17:31 アワ人はニフハズとタルタクを造り、セファルワイム人はセファルワイムの神々、



アデラメレクとアナメレクに自分たちの子どもを火で焼いて献げた。

17:32 彼らは【主】を礼拝したが、自分たちの中から高き所の祭司たちを自分たちで任命し、この祭司たちが彼らのために高き所の宮で祭儀を行った。

17:33 彼らは【主】を礼拝しながら、同時に、自分たちが移される前にいた国々の慣わしによって、自分たちの神々にも仕えていた。

主を信じていると言いながら（または自分そのように思っていないながら）偶像を持つ人々が、いかに本当の信仰から離れているか…という事実が明らかにされています。

「彼らは【主】を礼拝しながら、同時に、自分たちが移される前にいた国々の慣わしによって、自分たちの神々にも仕えていた。」とありますが、彼らは平気で「自分たちの子どもを火で焼いてささげ」ることでできたのです。

神と偶像と両方に仕えることはできません。偶像に仕えているなら、それは神に反しているのです。光と闇に共通点がないのと同じです。また神と富に仕えることもできないと主イエスは語られました。神のみを神としましょう。

神以外のものを神のようにして、それに従ったり頼ったり、伺いを立てたりなどということがあると気づいたなら、明確に悔い改めて、もっと純粹に主に従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 水曜

列王Ⅱ



17:34 彼らは今日まで、以前の慣わしのとおりに行っている。彼らは【主】を恐れることはなく、【主】がイスラエルと名をつけたヤコブの子たちに命じられた、掟や定めや律法や命令のとおりに行くこともない。

17:35 【主】はイスラエル人と契約を結び、次のように命じられた。「ほかの神々を恐れてはならない。これを拝み、これに仕えてはならない。これにいけにえを献げてはならない。

17:36 大きな力と、伸ばされた腕をもって、あなたがたをエジプトの地から連れ上った【主】だけを恐れ、主を礼拝し、主にいけにえを献げなければならない。

17:37 主があなたがたのために書き記した掟と定めと律法と命令をいつも守り行わなければならない。ほかの神々を恐れてはならない。

17:38 わたしがあなたがたと結んだ契約を忘れてはならない。ほかの神々を恐れてはならない。

17:39 あなたがたの神、【主】だけを恐れなければならない。主はすべての敵の手からあなたがたを救い出される。」

17:40 しかし、彼らは聞かず、以前の彼らの慣わしのとおりに行った。

17:41 このようにして、これらの民は【主】を礼拝すると同時に、彼らの刻んだ像にも仕えた。その子たちも、孫たちも、その先祖たちがしたとおりに行った。今日もそうである。

サマリヤに移住した人々は、神様を信じていると言いながら、また礼拝していると言いながら、「以前の彼らの慣わしのとおりに行った。」とあります。その実際について詳しく述べられていますが、これ

は問題です。彼らとは逆の者でなければならないのです。

私たちは先ずは主を恐れることです。偶像と関わり、主に従わないのは、主を恐れていないからです。またおきて、定め、律法、命令に従うべきです。ヤコブに限らずこれらはすべて聖書にあります。聖書を行きましょう。

そして「ほかの神々を恐れ」ないことです。偶像は単なるモノにしか過ぎません。悪霊は神に滅ぼされることが決定しています。それらに従って主への信仰を攻撃してくる人もあるかもしれませんが、彼らは主の守りの中にはいません。

そして主の契約を常に覚えることです。祝福の約束は力ある希望です。

私たちは「これらの民は主を恐れ、同時に、彼らの刻んだ像に仕えた」などということのないように、これらのことに本気になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 1日 木曜

列王Ⅱ

18:1 イスラエルの王エラの子ホセアの第三年に、ユダの王アハズの子ヒゼキヤが王となった。

18:2 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はアビといい、ゼカリヤの娘であった。

18:3 彼は、すべて父祖ダビデが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。

18:4 高き所を取り除き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、モーセが作った青銅の蛇を砕いた。そのころまで、イスラエル人がこれに犠牲を供えていたからである。これはネフシュタンと呼ばれていた。

18:5 彼はイスラエルの神、【主】に信頼していた。彼の後にも前にも、ユダの王たちの中で、彼ほどの者はだれもいなかった。

18:6 彼は【主】に堅くつき従って離れることなく、【主】がモーセに命じられた命令を守った。

18:7 【主】は彼とともにおられた。彼はどこへ出て行っても成功を収めた。彼はアッシリアの王に反逆し、彼に仕えなかった。

18:8 彼はペリシテ人を討ってガザにまで至り、見張りのやぐらから城壁のある町に至るその領土を打ち破った。

18:9 ヒゼキヤ王の第四年、イスラエルの王エラの子ホセアの第七年に、アッシリアの王シャルマネセルがサマリアに攻め上って来て、これを包囲し、

18:10 三年後にこれを攻め取った。すなわち、ヒゼキヤの第六年、イスラエルの王ホセアの第九年に、サマリアは攻め取られた。

18:11 アッシリアの王はイスラエル人をアッ



シリアに捕らえ移し、彼らをハラフと、ゴザンの川ハボルのほとり、またメディアの町々に定住させた。

18:12 これは、彼らが彼らの神、【主】の御声に聞き従わず、その契約を破り、【主】のしもべモーセが命じたすべてのことに聞き従わず、これを行わなかったからである。

ヒゼキヤは父が悪王であったにもかかわらず、「主の目にかなうことを行った。」とあります。母がゼカリヤの娘であり、預言者イザヤと関わりがあり、また同時期にイスラエルが不信仰ゆえに滅ぼされた様子から教訓を得たこともあったでしょう。

様々なことから信仰の糧を得る人もあれば、何を見ても悟らない人もいます。ヒゼキヤのように悟る人となりましょう。

ヒゼキヤは偶像につながるものは「取り除き」、「切り倒し」しましたし、さらには「モーセの作った青銅の蛇」をも打ち砕きました。これは主のことばによって、民を病から救うために造られたものですが、それ自体が偶像のように信仰の対象になってしまったものです。

かつての証しや信仰体験も、それが主ご自身から離れてしまえば、むしろ偶像のように信仰かの妨げとなってしまいます。過去の出来事に固執するよりも、今生きて働いておられる主ご自身が大切です。必要とあれば過去と決別してでも、主ご自身との交わりを優先させましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 金曜

列王Ⅱ

18:13 ヒゼキヤ王の第十四年に、アッシリアの王センナケリブが、ユダのすべての城壁のある町々に攻め上り、これを取った。

18:14 ユダの王ヒゼキヤは、ラクシュのアッシリアの王のところに人を遣わして言った。「私は過ちを犯しました。私のところから引き揚げてください。あなたが私に課せられるものは何でも負いますから。」そこで、アッシリアの王はユダの王ヒゼキヤに、銀三百タラントと金三十タラントを要求した。

18:15 ヒゼキヤは、【主】の宮と王宮の宝物倉にある銀をすべて渡した。

18:16 そのとき、ユダの王ヒゼキヤは、自分が【主】の神殿の扉と柱に張り付けた金でぎ取り、これをアッシリアの王に渡した。

18:17 アッシリアの王は、タルタン、ラブ・サリス、およびラブ・シャケを、大軍とともにラクシュからエルサレムのヒゼキヤ王のところへ送った。彼らはエルサレムに上って来た。彼らは上って来ると、布さらしの野への大路にある、上の池の水道のそばに立った。

18:18 彼らが王に呼びかけたので、ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、およびアサフの子である史官ヨアフは、彼らのところに出て行った。

18:19 ラブ・シャケは彼らに言った。「ヒゼキヤに伝えよ。大王、アッシリアの王がこう言っておられる。『いったい、おまえは何に拠り頼んでいるのか。』」

18:20 口先だけのことばが、戦略であり戦力だということか。今おまえは、だれに拠り頼んでいるのか。私に反逆しているが。

18:21 今おまえは、あの傷んだ葦の杖、エジ



プトに拠り頼んでいるが、それは、それに寄りかかる者の手を刺し貫くだけだ。エジプトの王ファラオは、すべて彼に拠り頼む者にそうするのだ。

18:22 おまえたちは私に「われわれは、われわれの神、【主】に拠り頼む」と言う。その主とは、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除いて、ユダとエルサレムに「エルサレムにあるこの祭壇の前で拝め」と言った、そういう主ではないか。

18:23 さあ今、私の主君、アッシリアの王と賭けをしないか。もし、おまえのほうで乗り手をそろえることができるのなら、おまえに二千頭の馬を与えよう。

18:24 おまえは戦車と騎兵のことでエジプトに拠り頼んでいるが、私の主君の最も小さい家来である総督一人さえ追い返せないのだ。

18:25 今、私がこの場所を滅ぼすために上って来たのは、【主】を差し置いてのことであろうか。【主】が私に「この国に攻め上って、これを滅ぼせ」と言われたのだ。』」

ユダの王ヒゼキヤは前の王アハズが、不信仰によってアッシリアに依っていたことには倣わず、「アッシリアの王に反逆(18:7)」しました。それでアッシリアはユダに攻めて来たのです。

これは外交的には失敗のようにも見えます。將軍ラブ・シャケは大軍を率いて、勝利を確信し、ヒゼキヤの信仰も主の名も侮り、果ては「主が私に『この国に攻め上って、これを滅ぼせ。』と言われたのだ。」などと、ユダの信仰心をばかにする発言までしています。

小国ユダにとっては、神に従ってアッシリアに背くことは、圧倒的不利な状況を覚悟しなければ

ならないことでした。それでもヒゼキヤは神への従順を選んだのです。

私たちにしても同じことが起こるでしょう。実は神の福音はこのような人々、すなわち信仰のゆえに不利状況を選択した人々によって、世界に伝えられて来たのです。日常の小さなことから殉教に至るまで、信仰のゆえに喜んで失う人々が、福音の担い手なのです。

主の愛のご計画のために、時には失うことを喜びとしつつ、みこころに従ってみましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



3日 土曜

列王Ⅱ

18:26 ヒルキヤの子エルヤキムとシェブナとヨアフは、ラブ・シャケに言った。「どうか、しもべたちにはアラム語で話してください。われわれはアラム語が分かりますから。城壁の上にいる民が聞いているところでは、われわれにユダのことばで話さないでください。」

18:27 ラブ・シャケは彼らに言った。「私の主君がこれらのことを告げに私を遣わされたのは、おまえの主君や、おまえのためだろうか。むしろ、城壁の上に座っている者たちのためではないか。彼らはおまえたちと一緒に、自分の糞を食らい、自分の尿を飲むようになるのだ。」

18:28 ラブ・シャケは突っ立って、ユダのことばで大声で叫んで、こう告げた。「大王、アッシリアの王のことばを聞け。」

18:29 王はこう言っておられる。『ヒゼキヤにごまかされるな。あれは、おまえたちを私の手から救い出すことができないからだ。』

18:30 ヒゼキヤは、「【主】が必ずわれわれを救い出してください。この都は決してアッシリアの王の手に渡されることはない」と言って、おまえたちに【主】を信頼させようとするが、そうはさせない。』

18:31 ヒゼキヤの言うことを聞くな。アッシリアの王はこう言っておられるからだ。『私と和を結び、私に降伏せよ。そうすれば、おまえたちはみな、自分のぶどうと自分のいちじくを食べ、自分の井戸の水を飲めるようになる。』

18:32 その後私は来て、おまえたちの国と同じような国におまえたちを連れて行く。そこ



は穀物と新しいぶどう酒の地、パンとぶどう畑の地、オリーブの木と蜜の地である。おまえたちが生き延びて死ぬことのないようにするためである。たとえヒゼキヤが、「【主】はわれわれを救い出してください」と言って、おまえたちをそそのかしても、ヒゼキヤに聞き従ってはならない。

18:33 国々の神々は、それぞれ自分の国をアッシリアの王の手から救い出したのだろうか。

18:34 ハマテやアルパデの神々は今、どこにいるのか。セファルワイムやヘナやイワの神々はどこにいるのか。彼らはサマリアを私の手から救い出したか。

18:35 国々のすべての神々のうち、だれが自分たちの国を私の手から救い出したか。

【主】がエルサレムを私の手から救い出せるとでもいうのか。』

18:36 民は黙って、彼に一言も答えなかった。「彼に答えるな」というのが、王の命令だったからである。

18:37 ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、アサフの子である史官ヨアフは、自分たちの衣を引き裂いてヒゼキヤのもとに行き、ラブ・シャケのことばを告げた。

主が弱小の国であるユダを通して栄光を表されたのは、その解決と勝利が主ご自身の手によるものであることを、明らかにするためです。それはすべての時代の者への教えです。すなわち人は、死と罪の前には全く弱小者だからです。

またサタンの策略と惑わしの前には、人は無力なのです。その惑わしはまさにラブ・シャケのことばのようであり、信仰は「ごまかし」とし、神に背くなら「生きながらえて死なない」と誘惑し、

神に従っても「主が…救い出すとでもいうのか」と、神への信頼を揺るがすようなことを、心の内にささやいてくるのです。

「彼に（サタンに）答えるな。」というのには有効な対処です。すべての領域でサタンとの決別を宣言し、関係を断ち切りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





19:1 ヒゼキヤ王はこれを聞くと衣を引き裂き、粗布を身にまどって【主】の宮に入った。
19:2 彼は、宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、年長の祭司たちに粗布を身にまとわせて、アモツの子、預言者イザヤのところに遣わした。

19:3 彼らはイザヤに言った。「ヒゼキヤはこう言っております。『今日は、苦難と懲らしめと屈辱の日です。子どもが生まれようとしているのに、それを産み出す力がないからです。』」

19:4 おそらく、あなたの神、【主】は、ラブ・シャケのすべてのことばを聞かれたことでしょう。彼の主君、アッシリアの王が、生ける神をそしるために彼を遣わしたのです。あなたの神、【主】は、お聞きになったそのことばをとがめられます。あなたは、まだいる残りの者のために祈りの声をあげてください。』」

19:5 ヒゼキヤ王の家来たちがイザヤのもとに来たとき、

19:6 イザヤは彼らに言った。「あなたがたの主君にこう言いなさい。『【主】はこう言われる。あなたが聞いたあのことば、アッシリアの王の若い者たちがわたしをのしった、あのことばを恐れるな。』」

19:7 今、わたしは彼のうちに霊を置く。彼は、あるうわさを聞いて、自分の国に引き揚げる。わたしはその国で彼を剣で倒す。』」

19:8 ラブ・シャケは退いて、リブナを攻めていたアッシリアの王と落ち合った。王がラキシュから移動したことを聞いていたからである。

19:9 王は、クシュの王ティルハカについて、「今、彼はあなたと戦うために出て来ている」との知らせを聞くと、再び使者たちをヒゼキヤに遣わして言った。

19:10 「ユダの王ヒゼキヤにこう伝えよ。

『おまえが信頼するおまえの神にだまされてはいけない。エルサレムはアッシリアの王の手に渡されないとやっているが。

19:11 おまえは、アッシリアの王たちがすべての国々にしたこと、それらを絶滅させたことを確かに聞いている。それでも、おまえだけは救い出されるというのか。

19:12 私の先祖は、ゴザン、ハラン、レツェフ、またテラサルにいたエデンの人々を滅ぼしたが、その国々の神々は彼らを救い出したか。

19:13 ハマテの王、アルパデの王、セファルワムの町の王、ヘナやイワの王はどこにいるか。』」

「衣を裂き、荒布を身にまどって」とは、主の前に覚悟をもって悲痛な祈りをささげる時の姿です。彼は「産み出す力がない」と言って、この苦しみには希望があることと、しかし難航していることの両面を表しています。どんな苦しみにもその後の喜びがあり出産のような希望があります。そしてそれを産み出すのは主の力によるのです。

ヒゼキヤは主により頼んでいます、自分ひとりの力で信仰を貫こうとは思っていませんでした。イザヤという信仰の助け手にも頼っています。主は愛の交わりと、励まし合いを喜び、これを求めておられます。それはまた三位一体の神のご性質でもあります。

主にある希望を持ちつつ、謙遜になって信仰の励ましをもらいましょう。互いに希望と慰めを与え合いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

